

障害の早期発見と 就労へ橋渡しなど

自閉症の未来協 市長に提言

自閉症の人にもやさしい社会の実現を目指す市民団体「自閉症の未来協議会」は二十七日、障害の早期発見と一貫した支援体制を求める提言を金沢市の山野之義市長に提出した。

提言では、幼稚園・保育所から高校までの各機関の連携強化、教員の支援体制、学校から就労への橋渡し強化

などを訴えている。市役所を訪れた足立章江会長は「目指す先は就労。『やさしい社会を』とつたうだけでなく、職場などで具体的な接し方を広めていくことが大切」と話した。

山野市長は「企業経営者と協力を深めることも必要」と応じていた。自閉症など発達障害の子どもや保護者らを支えるため市は二〇一一年に市教育プラザ富樫に心理士や保健師ら専門家によるチームを設置。乳幼児期から高校まで一貫した支援に取り組んでいる。

協議会は二二年四月、市民や企業経営者、福祉関係者らが金沢大の協力を得て結成。定期的に議論を重ねている。(押川恵理子)